

向学館通信

2009・2・26

新学年にむけての準備の時期です！

学年末テストが終われば、やれやれと安心して遊んでしまう人と、新学年に向けての学習をスタートさせる人とに分かれます。結果は大きな差になることが見えています。

よく遊び、よく学び、集中力をきたえよう！

国語の勉強のしかた。

「読解力」が育たないのは、なぜだろうか？

他塾から移ってきた生徒の多くは、正しい国語の勉強の仕方を教えられていないか、間違った勉強方法を身につけてしまっています。

典型的なのは、国語教材の問題文を理解しないまま、「問い」の答えをさがして、適当に穴埋めをしていく、といったやりかたです。ここで問題なのは、「問題文を理解しないまま」にすまそうということです。こういう生徒に、「わからないところや、難しい言葉はないか」と尋ねても、「べつに・・・」といった反応をします。しかし、「この言葉はわかる？ この文はどういう意味だ？」といった具体的な質問をすると、全然こたえられません。さらに、「この文章は、全体としてどういう意味なんだ？」と聞いても、ものを言わない。また、意味を要約するような、記述式のところは全部飛ばしていく子もいます。などなど、文意の把握は、お寒い限りです。つまり、文章がまったく読めない子に「育て上げられている」ケースを、私たちは、つねに見せつけられてきました。

なかには、「前の塾では、答えを速く書くことが一番大事で、じっくり文章を読むことなどしたことがない」と悪びれることなく、自分のやり方の「正しさ」を主張した人もいました。

こういう実態を、日々、目撃していると、考える力を奪っているものがあるのに、それに気づかず、考える力を奪われるためにお金も時間も費やしているという、恐ろしいような事実について、考え込んでしまいます。

国語力はすべての知識の源泉。能力の基礎です。

前回の「向学館通信」で、理科・社会の勉強の仕方について書きました。そのなかで、意味が分からないまま暗記しようとするのは、大きな損だし、考える力も育たないといった意味のことを述べました。実は、「論理的に理解する」より「太字の言葉を覚えよう」という貧困な学習態度に陥っているのは、国語の読解力が低いためです。

ちょっと長めの文章だと、文意をたどることができない、また、意味を要約して話すことが出来ない、といったことが「普通の状態」になってきているといっても、言い過ぎではないような気がしています。怖いことだと思います。理科や社会の教科書が読み取れない人が、高校生の中にたくさんいることも承知しています。そして、こうした人たちが大学へ進みますが、大学のハイレベルな講義を理解し得ないだろうと思います。さらに、大学の講義も理解できなくて、インターネットで引っぱってきたデータをパソコンでつなぎ合わせるような「レポート」を書いて、社会に出ていく人が多いと聞いています。日本の将来が心配です。また、その当人たちの将来も、心配です。

国語の力をつける勉強方法で「考える力」を伸ばそう！

前回も指摘しましたが、いま、学力の国際比較などで、日本の子供たちの「考える力」や「理解し、応用する力」などが低下しているといわれています。たしかに、考えることを嫌がる風潮が十年前に比べて一段と強まっているような気がします。

向学館では、国語教育に特別な努力をしてきました。ふつう、塾では、国語を教えることをあまりやりません。それは、教え方が難しいのと、経営的に見てあまり得ではないからです。こういうことを承知の上で、あえて国語に力を注いできたのは、子どもたちに本当の「考える力」をつけてほしいと願ってきたからです。

10年以上の経験から、当塾で行っている作文指導は、読解力や思考力を鍛えるには、とても有効な方法だと思っています。作文・小論文コースで「考える力」を伸ばしてください。